天長地久

湊川隧道保存友の会会報「てんちょうちきゅう」　第３号
発行日　　平成１６年　３月２１日
発行者　　湊川隧道保存友の会会長　神吉　和夫

『湊川隧道保存友の会』への期待

兵庫県神戸県民局長　藤原　正治

神戸のまちは、六甲山頂でスキーをしているときに山麓では梅の花見が楽しめ、また、桜の開花時期は表六甲と裏六甲ではまったく異なっています。

昨年４月神戸県民局長就任以降、あらためて、この神戸の多様な姿に魅せられ過ごしてまいりました。

県民の皆さんと語り合った２１世紀への夢提案「神戸地域ビジョン」では、神戸地域は、「人々が集い、喜びと感動が共有できる『楽しいまち・神戸』」として、躍動する神戸が表現されていますが都市と田園の両方の豊かな姿をもち多くの市民が暮らす神戸には、多様な楽しみ、喜びがあり、また課題もあります。

これら地域の課題には地域からの取組みがなによりも大切であり、「湊川隧道の保存友の会」の神吉会長はじめ会員皆様方の日頃の活動、ご尽力に深く感謝申し上げる次第です。

平成１４年１１月湊川隧道の一般公開以来、既に約２０００人の方々が見学に訪れていただいています。昨年１１月の「土木の日」にちなんだ見学会は、「友の会」が地元商店街、地域の方々と連携して開催され、約１０００人の方々が初めてのトンネル内でのミニコンサートを楽しんでいただき、私も、トンネル内での弦楽器演奏を聴きながらレンガ壁面の音響効果に大変感心しました。湊川隧道は、友の会の活動により、その存在感をますます増していくことと思います。

明治期、先人が築き上げた社会資本ストックの一つでもある湊川隧道を、安全で楽しく「つかう」ための創意工夫が求められています。

これからの隧道活用という視点からも「湊川隧道保存友の会」会の活動に期待し、会の発展と会員の皆様方のますますのご活躍を祈念いたしましてごあいさつとします。

藤原神戸県民局長に「天長地久（第３号）」の巻頭言をお願いしたところ、快く引き受けていただきましたので、本号表紙にご紹介しました。

◆湊　川　隧　道　ニ　ュ　ー　ス◇

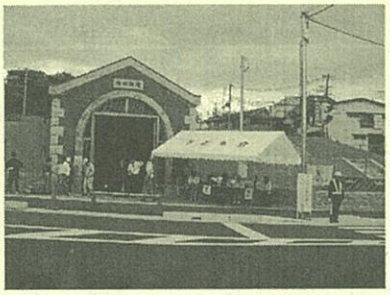
『湊川隧道見学会とミニコンサート開催！』

見学者もスタッフも

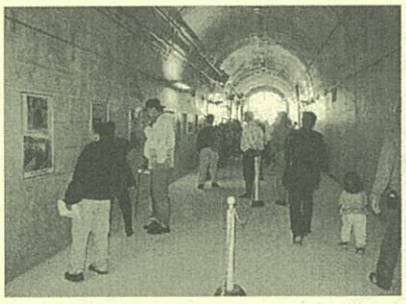
感動した一日でした！

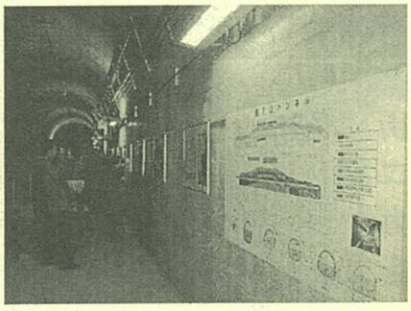
今回の見学会は、湊川隧道保存友の会会員の内２２名の方が、ボランティアとして参加されました。事前に２回の隧道にかかわる勉強会に参加していただき、当日、自ら積極的に「湊川隧道」や「湊川周辺の歴史」について、見学者に説明していただきました。催しを重ねる毎に会員皆様の活動に対する意識が少しずつ変化してきています。

次回も皆様の参加を期待しています。

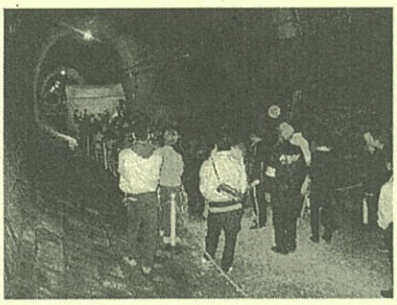


見学会受付





パネル展示（ボランティア３名が説明）



湊川隧道内

ミニコンサート

お買物券抽選会場

『ミニコンサートを終えて』

応用地質㈱　　鳥居　敏

今年度も隧道見学会というイベントを行いましたが、その中で初の試みとして隧道内でのミニコンサートを開催しました。これまでは隧道そのものの見学、ということをイベントの中心に据えてきたのですが、そろそろ新しいことに挑戦してみようということから今回の企画となった訳で、新しい企画を隧道内でのミニコンサートとすることは簡単に決定しました。

しかし、いざ開催するとなると、隧道内で楽器を演奏するとどのように響くのか、音量や音質はコンサートとして耐えられるものになるのか、舞台や観客席はどのように設営するのか、など未知の部分がたくさんあることに気がつきました。

当日は、演奏をオーケストラ・ソノリテという阪神間で活動している団体からの選抜メンバーに依頼し、２０分のステージを５回行いました。前半３回は金管楽器（トロンボーン２本＋ホルン)、後半２回は弦楽器（ヴァイオリン２本＋ヴィオラ＋チェロ）という編成でした。演奏時には立ち見が出たり、何ステージにも渡って聞いて下さる方がいたりなど、まずは成功と言えるものだったと思っています。

実際にやってみて初めてわかることなどもたくさんあり、今後の検討課題が見えてきました。しかし、まずは隧道の見学以外の活用が初めてできた、ということに意識があったと感じています。最後になりましたが、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

★☆★

『湊川隧道見学会を終えて』

月刊センター　　本地　真穂

第２回目の湊川隧道見学会は１１月３０日、１，０００人を超える見学者を迎えて好評の内に終了しました。今回の隧道見学会には特筆すべきことが二つありました。

まず、２５名の登録ボランティアがデビューされたこと。会員の中から手を挙げていただいた皆さんが、湊川隧道の歴史や文化、構造などの勉強会を重ね、見学者への説明をしながら安全に終えられるよう、積極的にサポートして下さいました。寒い隧道内で朝から夕方まで、笑顔で立ち続けて下さった登録ボランティアの皆様に心から御礼申し上げます。これから活動を広げていく上で、中心となって下さることを期待しています。

もう一つは、隧道内でクラッシック・コンサートを行ったことです。一昨年の見学会でのアンケートに「隧道内でコンサートを」との希望が多く、それに答えるためでした。

しかし、実現までには役員の皆さんの大変な下仕事がありました。何度も会議を重ね、音響や照明などは隧道内でテストを行った上でのコンサートでしたが、不安もいっぱいでした。ボーイスカウトの友人がカブスカウトを２０人ほど引率して来てくれたのですが、私語せずに聴いていた子供たちは、「初めての経験で楽しかったと」言ってくれた時に、『成功した！』と嬉しく思いました。

マスコミにも取り上げられ次回への期待も高いようです。湊川隧道にもっと興味を持っていただけるよう、ご協力いただいた地域の皆様と共に知恵を絞りたいと思います。

『近代土木遺産の講演会開催！』

平成１５年度の講演会は、馬場俊介教授（岡山大学、本会顧問）により、全国の近代土木遺産の現況についての講演をしていただきました。

ここで、少しだけ講演の内容を紹介します。

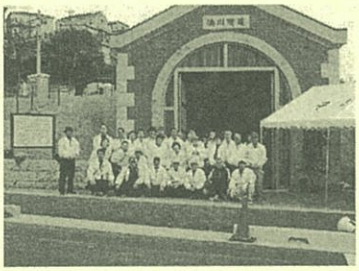
『・・・・・歴史的な古い土木構造物の全国調査の結果は、２～３年前に「近代土木遺産の２０００選」という形で公表されまして、たぶん、その効果は　少しあがってきているのではないかと思います。

と申しますのは、東京都の田舎にあるＡランクの非常に立派な橋があるのですけれども、どうしても交通容量が足りなくて架け替えることになったのですが、リストにＡランクで挙がっているので歩道橋として残して、別ルートで新橋を架けることが決まったそうです。

このようにして、リストが公表されれば、心ある土木業者の方は、それを重んじて残していってくれているようで、それなりに効果はあがっていると思います。・・・・・・・』

※本講演会の議事録は、平成１６年度講演会にて頒布予定です。ご期待下さい！

『湊川隧道の玄関完成する！』



平成７年１月１７日に発生した兵庫県南部地震は、新湊川を始め、湊川隧道（会下山トンネル）の坑門工（吐口側）の崩壊や、内部の煉瓦積みに亀裂を生じさせるなど大きな被害をもたらしました。

このため、トンネル部を含めた新湊川の災害復旧工事は、平成７年度から河川災害復旧助成工事として着手され、一昨年の１１月に無事に竣工式を迎えることができ、この湊川隧道の玄関（いりぐち）は復旧工事進捗の関係でやっとこの３月に完成しました。

この玄関の煉瓦部分の一部には、新しいトンネル工事の際に取り壊された湊川隧道の煉瓦を再利用して造られています。次回来られたときに発見してみて下さい。

『本号のトピック！』

先日、「ＮＨＫニュース１０」を見ていると、秋田放送局取材のトピックが流れてきました。

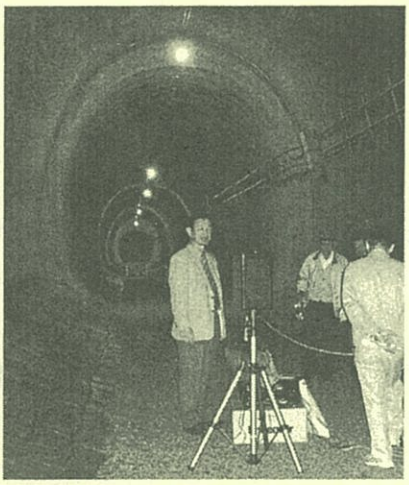
その内容は、奥羽本線の複線化に伴い、不要となった隧道を酒貯蔵庫としてＪＲ東日本から使用権を獲得し、熟成させているとのこと、きっと、おいしい古酒ができことでしょう。

この隧道の名称は、「鶴形トンネル」と呼ばれ、１９００年に竣工しました。

隧道の内部は、煉瓦造りで内・外観とも明治時代の姿を色濃く残しており、２０００年に国の登録有形文化財に指定されました。また、内部の気温は通年１１度を保っているそうです。

※　写真出展：【能代喜久水トンネル地下貯蔵ホームページ】より

『湊川隧道の音響』について



神戸大学工学部教授　　森本　政之

湊川隧道の音響を評価する際に重要なことは、トンネルの中で音楽ホールと同じ音を楽しむか、それとも、そのトンネルの音を楽しむか、どちらを期待するかによって大きく変わってきます。音楽ホールと同じ音となると適度な残響音、横方向からの反射音が必要ですし、かつ有害な反射音がない、ということが要求されます。これらの条件を湊川隧道に当てはめて考えてみましょう。

トンネルというと皆さんすぐに良く響 く、残響がある、というイメージをお持ちですが、湊川隧道は、床に敷いてあるバラストが強い吸音材の役目を果たしており、適度な残響があるとは言えません。横方向からの反射音は細長い形をして いることから、十分ではありませんが少しは期待できそうです。また有害な反射音ですが、トンネルの長手方向の両壁が反射音を返しており、若干の有害反射音が認められます。以上を考えますと、湊川隧道に音楽ホールの音を期待するには相当無理があるとように思われます。

それよりも、非日常的なトンネルの音を楽しむことを提案したいと思います。この場合でも、床部分は舗装したり木製の床を作ったりして，バラストを取り除いた方が，より残響音が豊かになりトンネルらしい音になると思います。また、ステージを片方の壁近くに設置することによって 有害反射音が少し軽減されると思います。

★編集局より★

ミニコンサートが終わった１１月１６日、音響の専門家である森本政之教授（神戸大学工学部）にボランティアで湊川隧道に来ていただきました。森本先生は思いスピーカーとステレオを持ち込み、２時間近く何度も曲目を変えながら反響音を観察して下さいました。ありがとうございました。

★☆★

耳より情報

湊川隧道ニュースの「トピック」でご紹介しましたように、兵庫県では、廃坑を酒蔵として吟醸酒を造っているところがあります。

それは、**「生野銀山（朝来郡生野町）」**と**「明延鉱山（養父郡大屋町）」**です。

生野銀山の坑内では、銀山熟成酒『岳』があります。酒米の王者である山田錦を心ゆくまで磨き上げ、蔵人の浪漫と匠の技で丹念に仕上げた吟醸酒を、１２００年の歴史ある生野銀山の坑道という大自然の胎内で深い眠りについた熟成酒です。坑道内は、一年を通じて温度１０～１１度、湿度９０％と一定した条件です。

また、明延鉱山では、播州の地酒である『播州一献』のお酒を貯蔵しています。このお酒は**『純米吟醸仙櫻』**と名前を変え、養父郡大屋町で限定販売されています。鉱山の中は、一年を通じて温度１３～１５度でお酒の貯蔵には最適な環境です。

※参考資料：【生野銀山坑内熟成酒「岳」、山陽盃のホームページ】より

湊川流域歴史物語（３）

烏原の水車と湊川の滝

園田学園女子大学教授　　田辺　眞人

寛政８年（１７９６）刊行の『摂津名所図会』は「湊川―水源丹生山田・東小部・西小部・藍那・小河等の渓川三流会して石井村に至り、千鳥瀧といひ、下流兵庫津に至って海に入る。常は流水少く、水碓（みずくるま）に取る事多し。古は懐下（えげ）山の麓を西へ流れ、兵庫の町の西より大和田濱にて海に入る」と記している。

北区山田町の南方に水源を持つ烏原川と石井川と天王谷川が、兵庫区石井町近くで合流して湊川が形成されるわけだから、この記述はかなり正確で、明治に付け替えられて長田区の苅藻川に流し込まれて新湊川になるまで、（旧）湊川は今の湊川の市場や兵庫区役所や新開地本通を流れて、ハーバーランドの西で川崎とか湊岬とか呼ばれる岬を作って海に入っていた。水碓というのは水車のことで、明治１６年の『兵庫県八部郡地誌』によると流域の奥平野村と石井村とに４戸づつ水車業を営む家のあることが書かれており、烏原村に関しては９８戸の民家の内水車をなりわいとする家が２１戸だと記しているから、湊川流域での水車業は烏原中心だったことがわかる。明治１８年の地図を見ても、烏原谷に多くの水車場が記されている。明治３８年に立ヶ畑堰堤が完成して烏原貯水池ができると、烏原村は人造湖の湖底に水没して村人は兵庫や平野方面に移住し、村の旦那寺だった願成寺は上沢に移築された。湊川流域の水車産業はこの時衰退したのだろう。

衝上断層が造り上げた六甲山地では山中を流れる河川は断層崖の部分を滝となって流れ落ちている。生田川の布引の滝はその典型で、湊川の場合は上流の石井川の千鳥が滝がそれに当たり、江戸時代から名所として知られていた。湊川のもう一本の支流・天王谷川では、同様の滝は行場として信仰されていた。神の宿る場を高座（たかみくら、こうざ）といい、天王谷川には高座の滝があったが、昭和１３年の阪神大水害の時に消滅した。高座という地名だけは今も天王谷に残っている。

湊川隧道について（その３）

湊川隧道の扁額

兵庫県河川整備課　佐々木　良作

湊川隧道の下流側、上流側の坑口部に掲げられていた扁額（題額とも言います。）は、タテ 0.9m、ヨコ 2.7m、奥行 0.3mであり、明治期に築造された時のままの状態で、現在は新湊川トンネルの坑門に据え付けられている。下流側の扁額は、震災で坑口部が崩壊したが、運良く崩壊土砂の中から無傷で回収されたものである。上流側の扁額は、昭和３年に神戸電鉄の建設に伴う隧道の延伸で一度据え付け替えがなされていたが、今回の震災復旧事業で再々度の据え付けとなっている。

下流側「天長地久」上流側「湊川」の扁額は、ともに小松宮彰仁親王による漢隷書体の揮毫であり、右肩に「適意以取楽　随寓以自安」（道教思想を反映して、人為の土木構造物が自然の中で悠揚と存続することを祈ったものと考えられる。）、左肩に「陸軍大将大勲位特賜菊華章頸飾功二級」、そして右下には「彰仁親王章」の落款がある。これら扁額に刻まれた文字の判読は、今回の改修工事に伴う保管中に拓本をとることで可能になったものであり、一東書会会長の井茂圭洞先生（昨年、日本芸術院賞を受賞されました。）にご指導頂いている。

さて、小松宮彰仁親王が、扁額を揮毫することになった経緯はわからないが、親王と当時の神戸市初代市長である鳴滝幸恭の関係について、「海鳴りやまず」（神戸新聞社編）から、鳴滝は親王（当時は仁和寺宮）が北陸・奥羽方面征討軍の総督であった時、幕下の隊長として従軍したと記述されていることから類推することが出来る。

琵琶湖疏水の扁額は、伊藤博文、山縣有朋といった当時の著名な政治家によって揮毫されているが、近代土木事業の黎明期にあって、社会資本としての土木構造物に対する関係者の厚い思いが伝わってくるようである。

ちなみに、小松宮彰仁親王は、明治１０年に設立した博愛社（後の日本赤十字社）の初代総長である。

おしらせで～す！

平成１５年度の活動記録

◎平成１５年　３月２２日（土）～３０日（日）
*「新開地アートブックプロジェクト～まちの地質調査～」*出展
場　所：神戸市兵庫区新開地　神戸アートビレッジセンター内
出展物：扁額「湊川」、「天長地久」
主　催：新開地アートストリート実行委員会

◎平成１５年　５月１１日（日）　*「湊川隧道と新湊川を歩く」*後援
場　所：神鉄長田駅～会下山公園～湊川隧道～湊川公園
講　師：田辺眞人（園田学園女子大学教授、本会理事）
参加者：約２００名（一般募集）、主　催：神戸電鉄、朝日新聞社

◎平成１５年　６月２１日（土）　*「兵庫区歴史花回道ウォーク」*後援
場　所：湊山小学校～烏原堰堤～湊川隧道～湊川公園
講　師：田辺眞人（園田学園女子大学教授、本会理事）
参加者：約２００名（一般募集）、主　催：兵庫区民まちづくり会議

◎平成１５年　７月１３日（日）　*「湊川隧道保存友の会」*講演会開催
場　所：神戸市健康づくりセンター健康ライフプラザ
題　名：「全国の近代土木史の現況について」
講演者：馬場俊介（岡山大学教授、本会顧問）　参加者：約１００名

◎平成１５年　９月２４日（水）　*「湊川隧道見学会　第一回事前学習会」*開催
場　所：あすてっぷKOBE
内　容：神戸市史、神戸市水害史、湊川付替経緯について
講　師：佐々木良作（県庁職員、本会理事）、参加者：２３名

◎平成１５年１０月１２日（日）　*「湊川隧道見学会　第二回事前学習会」*開催
場　所：あすてっぷKOBE
内　容：神戸の三大土木事業、湊川隧道の規模、材料について
講　師：佐々木良作（県庁職員、本会理事）、参加者：１４名

◎平成１５年１１月３０日（日）　*「湊川隧道見学会とミニコンサート」開催*
場　所：湊川隧道内
内　容：湊川にまつわるパネルの展示、煉瓦販売
ミニコンサート（吹奏楽、管弦楽　各３回講演）
参加者：約１，０００名（一般募集）、主　催：湊川隧道保存友の会
後　援：兵庫県神戸県民局、新湊川を守り育てる会
土木学会関西支部、神戸新鮮市場

◎平成１６年　３月２１日（日）　*「湊川隧道保存友の会・総会」*

平成１６年度の行事予定

☆平成１６年　７月上旬　　*「湊川隧道保存友の会・講演会」*開催予定
　　場　所：未定
　　内　容：未定（神戸の歴史、近代土木遺産に関する講演予定）
☆平成１６年１１月中旬　　*「新湊川ウォーク（第２回）」*開催予定
　　ルート：石井ダム～烏原貯水池～新湊川
　　内　容：このウォークに併せ「湊川隧道」公開予定
　　主　催：兵庫県神戸県民局、後　援：湊川隧道保存友の会
☆ 平成１７年　３月下旬　　*「湊川隧道保存友の会・総会」*開催予定
　　場　所：未定
　　内　容：総会と併せて「講演会」を予定

その他連絡事項

◆レンガの販売について

隧道見学会および一般公開でも販売しました煉瓦にまだ在庫があります。この煉瓦は、湊川隧道に実際に使われていた明治時代の煉瓦です。この煉瓦販売による収益は、『湊川隧道保存友の会』の活動資金として使用されています。

◆会費の納入及び新規会員募集について

・平成１６年度会費の納入は原則として４月末日までにお願いします。
【平成１５年度総会（平成１６年３月２１日）出席の会員の皆様は、総会の受付にて会費を徴収させていただきます。】
・平成１６年度新規会員を募集しています。知り合いの方々にお声をかけていただき会員を増やしていきましょう。
・一般会員以外に法人会員も受け付けていますので、企業、団体関係者の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いします。

会　費：一般会員　　１，０００円／年
　　法人会員　　１０，０００円／年（一口以上）

◆平成１６年３月現在の法人会員の紹介

株式会社　新井組
応用地質株式会社
株式会社　サニー商工
大成建設株式会社
日本振興株式会社
寄神建設株式会社
株式会社　ｴｲﾄｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ
株式会社　建設技術研究所
大喜建設株式会社
西松建設株式会社
ﾊﾟｼﾌｨｯｸｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ株式会社
（五十音順）